

# 新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 242 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；  
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第8回

2017. 4.19

話：三沢浩

■ 寺子屋 242 は 5 人の参加で開催されました。

■ コンドルの教えを受けた造家学科卒が実作をともなって活躍し始め、日本でも「巨匠の時代」が現れます。そこでは、官の建築、官の建築だけでなく、勃興する資本主義に並走する民の建築も同時並行に走り出し、他のアジア諸国とは少し様相の異なる、外発と内発の両面を合わせもった活力が建築を生み出していきます。

辰野金吾「奈良ホテル」



片山東熊「表慶館」



妻木頼黄「東京府庁」



\*\*\*\*\*

新建・寺子屋(モダニズムの研究)242

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；  
2017年4月19日(水)話：三沢浩  
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第8回

## 1. 前回(第7回)のスライドについて 補足(スライドⅡ)

- 1) 北大のモデルバーン、小樽の木骨石造倉庫の細部
- 2) 金沢、山形にどうして擬洋風があったか
- 3) 小学校の擬洋風、芸大に残っているレンガ館
- 4) コンドルの教え方、その現存する作品の価値

## 2. 今回(第8回)のスライドについて(スライドⅢ)

- 1) 横浜博(1989)の「開港記念村」の3つの塔
- 2) 横浜市の主な近代建築 3つの塔と赤レンガ倉庫など
- 3) 辰野金吾の活躍 日銀、奈良ホテル、東京駅
- 4) 片山東熊の存在感 表慶館、奈良・京都博物館

## 3. コンドルの教え子たちと日本人建築家の誕生

- 1) 辰野金吾、曾根達三ら、イギリス派の存在
- 2) 工部大学造家学科から工科大学(1887)へ
- 3) 工科大学(辰野、1889)と工手学校(工学院)
- 4) 辰野は建築学会結成と『建築雑誌』(1888)に貢献

## 4. 片山東熊(第1回卒業生)のフランス派の建築とは

- 1) 5回の欧米視察と5年間の成果から宮廷建築家へ
- 2) 宮家と華族の邸宅デザインから帝室博物館設計へ
- 3) 赤坂離宮(1910)の完成までの10年間
- 4) 明治天皇に報告して「ぜいたくだ」といわれて失意して終わる

## 5. ドイツ派の妻木頼黄はエンデ&ベックマン事務所で働き大蔵技師に

- 1) 妻木は工部大中退、コーネル大へ、そしてベルリン工大へ
- 2) 大蔵技師として東京府庁、商業会議所、勸業銀行を完成
- 3) 横浜正金銀行と「日本橋」が現存
- 4) 辰野と国会議事堂の件で葛藤して果てる(上 P244)

\*\*\*\*\*

次回 <寺子屋 243> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読  
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第9回

話：三沢浩

2017年5月17日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所：新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円

問合せ：大崎元 (有)建築工房匠屋 03-3716-1743 3716-8459(fax) VED03705@nifty.com